

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291500035		
法人名	株式会社 あゆみ		
事業所名	グループホーム あゆみの杜		
所在地	島根県飯石郡飯南町頓原1070		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	平成26年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成25年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※「ともに歩み、ともに生きる」住み慣れた自宅を離れ、住み替えという選択となっても自宅の延長線上と考え、穏やかにひとりひとりがその人らしくいられる場所をつくっていきます。
 今後、地域の中でのその方を見つめ、「どうありたいのか」という思いを大切に、家・地域の方等と「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」関わっていきます。
 ※季節ごとのイベントの開催や音楽を通して交流を図っています。
 ※地元のイベントにも積極的に参加し、地域の皆様との交流を深めています。
 ※全館床暖房を採用しており、豪雪地帯の頓原にあっても、冬も暖かく過ごしていただけます。
 ※お風呂は併設する頓原ラムネ銀泉のお湯を利用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の笑顔が一日に一回は必ず見られるようにとの思いで理念の「三本柱」をもとに目標を立てて支援し、言葉使いに気をつけ笑顔で接している。職員の統一した介護力を上げるために研修会や学習会に参加し、向上心を持って働けるような職場づくりに力を入れている。重度化で散歩の回数が少なくなっているが、散歩の途中「最近見かけないけどどうされてますか？」と声をかけてくれる近所の人もあり、地域の人との交流を図りながら利用者の思いを大事にした支援をしたいと日々努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会等で理念の捉え方をスタッフで統一出来る様話し合いをしている。又、スタッフルームにも掲示してみんなで理念を共有して良いケアに繋げていけるよう心掛けている。	会議などで理念の理解を深め、3ヶ月毎に理念に沿った具体的な目標を決めて実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りなど、地域の行事に参加したり、町内の保育所との交流を図っている。昨年より、「収穫祭」を実施し、地域の方にも参加して戴いている。	秋祭りや、保育所の運動会、発表会等に参加し、囃し子が通る時は声をかけて貰っている。事業所行事として「収穫祭」を行い、手品師を呼び地域の人にも参加して貰い交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の方には家族会で「認知症サポーター」の研修会を実施したが、地域の方々には発信出来ていない為、今後の課題として考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や日常生活の様子・行事等の報告・施設内研修の結果報告など行っている。「ヒヤリハット」の報告もし意見交換等も行った。今後のサービス向上に活かしていきたい。	日々の利用者の状況や活動を伝え、「ヒヤリハット」事例も積極的に報告して助言を受けたり意見交換を行い、転倒防止策等今後の支援に繋げるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回の「地域ケア会議」で情報交換をしている。入居者の相談や困難ケース等あれば、必要時に話し合いをしている。	利用者のことで相談をしたり、「地域ケア会議」で情報交換を行い、互いに協力し合う関係が築かれている。町から口腔ケアの依頼や地域の高齢者の情報提供がありサービスに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。施設内研修を実施し「身体拘束について」正しく理解できるよう努めている。居室に鍵はなく、日中玄関の施錠はしていない。夜間は安全の為に施錠することになっている。	職員は研修会に参加したり「身体拘束ゼロ」の手引書等を読んで感想文を書き、互いに注意し合って支援している。今年度は指針の見直しを行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	指針を作成して施設内研修で勉強し高齢者虐待防止に努めている。日々のケアについても、全身状態や職員の対応に気になる点があれば、その都度注意するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいるが、制度について理解している職員は一部であり、学ぶ機会を十分に設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問や不安が解消出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケートを実施したり、家族会の中で意見・要望・苦情を聞く時間を作り、全体で共有し必要な対応をとるようにして、日常に活かせるよう話し合いを行っている。	アンケートの実施や家族会等で意見を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や主任会議で、運営に関する報告を受け、それに対して意見や提案を聞く機会を設け、反映している。	会議で意見を聞き、研修会への参加や勤務時間の検討等、出された意見を改善に繋げている。利用者の重度化もあり物品購入の事でも提案を受け検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与表や資格手当等を明確にし、各自が向上心を持って働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り施設外の研修に参加している。毎月の職員会で研修内容を発表する機会を設け、職員全体で共有出来る様にしている。また、新人職員に対しては、初任者研修を受講させ、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	調整会議や小規模・グループホーム部会に出席し、情報交換や勉強会に参加している。また、交換実習等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までのところで、家族・本人から話を聞ける機会を作っている。また、関わってこられた関係者等から意見を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談があれば、家族から話を聞く機会を作っている。必要があれば、それまで関わってこられた関係者からも意見を聞き、家族との関係づくりに役立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関わってこられた関係者から、当サービスを選ぶ事になった経緯を聞き、その上で面接の機会を持ち本人や家族にとって他サービスが良いと思われる場合には、その点も含め相談をすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の何気ない一つの出来事でも共にする事で学ばせて頂く事も多いが、つい職員主体になってしまう事もあるので、職員間で連携を取りながら共にする事で、信頼関係を築く努力はしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者一人ひとりに担当職員を置き、家族と連絡を取り合うようにし、一緒に支えていけるよう心懸けている。また、家族会を企画し入居者の方と一緒に過ごせる時間を持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで生活されていた地域ヘドレイブや祭りの見物に行き、馴染みのある方と話をしたり、風景を見られて「懐かしい」「良かった」という声を聞く事が出来ている為、今後も続けていきたい。	利用者のこれまでの生活を大事にし、ドライブや地域行事に出かけたり、併設する温泉や施設に来た知人との交流が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの入居者が居室から出て、ホールにて気の合う方同士で集まり会話されている。様子がおかしい時には、さりげなくスタッフが間に入り気持ち良く過ごしてもらえよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了したケースについては、相談があれば、対応させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や本人・家族から意見等の聞き取りを行っている。自分から、思いや希望を離されることは少ないが、日常の会話・表情などから思いの把握に努めている。	ホールにいる時や、トイレ、入浴介助中に、季節の風景や天候の会話をし、その中から思いをくみ取り職員間で情報交換し把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時の情報を元に、家族からの情報収集を行い把握することに努めている。一人ひとりの日常会話・生活から新たな情報が収集出来るよう心懸けているが、不十分である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や受診時の結果等を報告・記録し、誰もが情報を共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は作成しているが、十分なモニタリングが出来ていない。本人・家族からの思い等を考慮しながら、担当者会で話し合い、実現可能なものについては反映させている。	居室担当者からの情報や意見を介護計画に活かしている、連絡ノートで状況の確認をし、月一回モニタリングを行っている。現在記録物はパソコンで入力していてより良い方法を試行錯誤している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は個人の記録に記入しているが、細かく記入されていないこともあり、介護計画の見直しに活かされていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、その都度柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が不十分であるが、近隣の方の協力を得て支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医ではないかもしれないが、受診時の報告を家族にも報告し、一緒に利用者にとって良い医療が受けられるよう支援している。	希望のかかりつけ医を継続、支援している。入居する事によってかかりつけ医が遠くなり近くの病院を受診している人もあるが家族、本人も納得している。歯科医による指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時に日々の情報を報告してもらうようにしているが、不十分な事もある。全職員が日常の変化を把握して業務にあたるよう心掛けていきたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、おおまかな生活状況や利用状況等を文章で情報提供している。また、ケアマネからの情報を基に、退院後の生活はどう支援していくか話し合いを行っている。病院関係者とは情報交換や相談できる関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの看取りをまだ行ったことはない。前年度にアンケートを実施したが、家族の考えがまとまっておらず、早い段階からの終末期に向けての話し合いが出来ていない。	隣接する事業所で看取りの経験があり、職員は勉強会を行いいつでも対応する気持でいる。事業所として家族の意向を確認しながら対応したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、全職員が救急法の訓練を2年に1度行っている。現場での、意識消失などの時の初期創傷対応などは実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回(日中・夜間想定)行っている。内1回は消防署に依頼し実施している。防火管理者の資格も順次、取得している。地域の消防団へ協力をお願いしているが、合同での訓練は行えていない。	年2回避難訓練を行い、「防災の日」には町から警報発信があり利用者の安否確認等を行っている。備蓄品は現在は米と水を用意しているが、豪雨時のこともあり今後検討していく予定である。	最近では災害の形が変わってきているので、地域との協力体制を築き事業所の力を発揮されることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声掛けを心がけているが、不適切な言動になっていることもある為、職員会・昼礼、その都度個人の尊重について問題提起している。	入浴やトイレ誘導の時は、特に言葉使いに気をつけ支援している。トイレ誘導時に後処理用品をバケツに入れて持ち歩いていたが、他の人にわかりにくいように入れ物の工夫をした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人から希望を表せるように声掛けを行ったり、入居者一人ひとりに合った声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。散歩やドライブなど希望に添った支援を心掛けているが、その日の状況によって出来ないときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に行っている。洗顔等、自分では難しい方には温タオルを使い対応している。朝の更衣時、職員が選びがちな為、同じ服を続けて着ておられる事もあり、一緒に選んでもらうよう気をつけて行きたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については施設側で準備し、片付けを行っているが、下膳を手伝ってくださる入居者もおられる。行事の際や毎日ではないがおやつ作りなど、一緒に調理したり片付けを行っている。	自分で出来る人には下膳を一緒にして貰ったり、おやつ作りや行事の時にはお好み焼きやぜんざい等の好物を一緒に作る等、楽しめる場面を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの摂れた献立を組み、個々の体調等に配慮し摂取して頂いている。月間目標で水分量を1日1.5Lと決め実行し継続している。摂りにくい方は、ゼリーなどを作り摂取しやすいようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施しているが、不十分な時もあり、月間目標に掲げ徹底を心掛けている。義歯を使用の方は、週一回洗浄剤での消毒をしている。使用しているコップ・歯ブラシについても週一回消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、声を掛けトイレでの排泄に力を入れている。パットやパンツを本人の状況に合わせて使い分けている。	排泄パターンを把握し、落ち着きがなくソワソワしたり表情が変わった時にはさりげなく声をかけ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用している。出来るだけ自然排便があるよう軽体操の実施、水分補給・おやつ・寒天ゼリーなど工夫している。やむを得ず、浣腸・摘便・下剤を使用する時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設の温泉の湯を使用している。入浴は希望があれば毎日でも入浴出来るが、職員の都合で入って頂く時もある。	基本的には1日おきだが、希望があれば毎日でも入浴出来る体制をとり、温泉の湯で入浴を楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活に合わせて休みたい時は、居室で休まれている。夜間の安眠の為に午睡をとり過ぎない様に適時声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ノートに受診時に処方された薬が分かるようにしている。薬の増減・変薬時には、昼礼などで報告し、状態の変化に気を付けていくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の趣味や興味がある事を生活歴や本人との話の中で見つけ(将棋・かるた・パズル・カラオケ等)日常生活に取り入れて楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって散歩やドライブに出掛けたり、りんご狩りや遠足の遠足等も実施している。また、生まれ育った場所へのドライブに出掛けたり、孫やひ孫の通っている学校の運動会見物等も行っている。	重度な人が増え散歩の回数が減った人もいるが、町内を散歩したり、急な希望にも併設する事業所の送迎時を利用し対応している。希望を聞きながらドライブしたり遠出の外出を計画し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫へ保管している。必要な物等あれば家族に連絡し、職員が購入している。スタッフが同行し、買い物に出掛けることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話出来る様に支援している。手紙については1件あり、家族から手紙や荷物が届いたお礼に返事を書かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が不快と思われた場合等、都度席を変えたりテーブルの配置を変え対応している。テレビを消したり、消灯したり音や明かり、温度にも配慮している。個人が作られた作品を廊下に飾ったり、スナップ写真も掲示している。	カレンダーや皆で作った貼り絵、行事に出かけた時や日々の暮らしの様子を撮った写真を飾り落ち着いた空間作りをしている。床暖房で温かく過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファでの入居者同士の会話もよみられ、日中はほとんどの方が居室以外の場所で過ごしている。ホール和室にて職員や他者の目が気にならない様に戸を閉めて昼寝をされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や布団等、馴染みの物を持ち込んで使用されている。一人ひとりの状態に合わせて、畳を敷いたり手すりを設置するなど、安心して過ごせる空間作りに努めている。	孫の修学旅行のお土産品、抹茶をたしなんでいた時に使っていた茶筆筒、おめでたい時に使用していた風呂敷等の思い出の品を置き、今までの環境に近い居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な方には居室にも手すりを設置している。また、居室入口に表札を付けたり、トイレが分かりやすい様に標識を設置し、安全に生活出来るよう環境作りに取り組んでいる。		